

ID No.	2111
研究課題名	成人 T 細胞白血病における高精細 HTLV-1 トランスクリプトーム研究
研究代表者	佐藤 賢文 (熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター・教授)
研究組織	
受入教員	東條 有伸 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	内丸 薫 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授)
	山岸 誠 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・特任講師)
研究報告書	
<p>申請者はDNAプローブを用いたプロウイルス濃縮法と次世代シーケンサーを組み合わせた高精度なプロウイルス解析法を活用する事で日本の98名のDNA-seqデータを取得した。本研究内容に関して、現在論文投稿中である。</p> <p>上記のプロウイルス濃縮法をRNAより作成したcDNAライブラリーにも応用が可能である。この方法をATL患者とHTLV-1キャリア検体で行い、HTLV-1トランスクリプトームの違いを明らかにする。さらにこの方法によりウイルスのトランスクリプトのみならず、ウイルスとホストのキメラトランスクリプトを高感度に検出可能となった。ATL患者検体を用いて、キメラトランスクリプトを同定し、腫瘍化への関与の有無を明らかにしているところである。</p> <p>医科学研究所、病態医療科学分野では、HTLV-1感染者コホート共同研究班(JSPFAD)と協力して、解析対象となるATLとHTLV-1キャリアの検体からDNAとRNA抽出を行う。受入講座となる病態医療科学分野では、これまでにJSPFADとの連携によって、感染細胞の宿主トランスクリプトーム、エピゲノム、microRNAの発現等の大規模解析を実施し、データベース化している。本申請では、感染細胞の特異的表面マーカーと発現解析の組み合わせを多数例検討することで、発症リスク因子や治療標的分子の探索を行う。また上記のウイルストランスクリプトームとの統合を行い、HTLV-1発現が宿主に与える影響を高精度に解析し、ウイルスによるATL発症メカニズムの解明を進めている。本研究課題は、2019年度 東京大学医科学研究所共同研究に採択された、ATL病態解明へ向けたHTLV-1プロウイルスのゲノミクス・トランスクリプトミクス研究へと移行して、さらに研究を進めていく予定である。</p>	